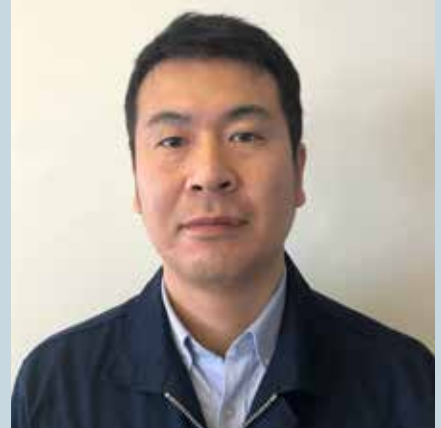


設備の高度化による継続的な生産性向上 社員の技能習得による定着率向上

創業以来、一貫して建築用金属資材の開発・製造に取り組んでいる。1978年に主力製品である鋼製床下梁「セラフレーム」を実用新案登録。高規格住宅向けに市場を拡大しつつ、工期短縮・建築コスト削減・災害耐性の強化といった市場ニーズに応える改良に取り組み続けている。また、早くから製造工程に切断/溶接等のロボットを導入（2020年2月現在10台）し、生産の合理化・標準化、品質改善を積極的に推進している。

●所在地	北海道上川郡当麻町3条西4丁目
●電話/FAX	0166-84-3111/0166-84-5151
●URL	http://www.seratekkou.co.jp/
●代表者	代表取締役 三上 正幸

●設立	1940年
●資本金	1,000万円
●従業員数	12名



生産設備の高度化・ロボット化による高い生産性

常に「妥協しない良い製品作り」と「お客様の立場に立った物作り」を第1に考えたものづくりに取り組んでいる。熟練技術を必要とし、当社製品の品質を左右しかねない切断・溶接等の工程にロボットを積極導入し、複数のロボットを連動制御する技術も向上させることで、常に安定した品質を維持する生産体制を整えている。設備導入にあたってはものづくり補助金等の行政施策を積極的に活用している。お客様第一の生産を常に目指している。



ロボット化された生産設備

大手住宅メーカーとの提携による自社製品の規格化推進と市場拡大

大手住宅メーカー等との業務提携を通じて、自社製品の規格化・標準化を進めることで、自動化された設備のフル活用が可能となっている。それにより、製造コストの削減が実現され、設備稼働率の向上、高い生産性の維持へと繋がっている。さらに、当社製品の市場認知度も着実に向上しており、近年は建築業界の展示商談会等に併せて出展していくことで、付加価値の高い新たな販路にも広がりを見せている。社長自らが先頭に立ち、展示会への出展や公的機関の支援策活用にも取り組んでおり、これらの活動を通じて海外市場への進出も模索している。



規格化された自社製品

匠の技術から最新鋭の設備制御技術へ

同社が、最新設備を積極導入し機械化・自動化を進めていくことで、社員に求める技能も伝統的な加工技術から機械制御技術へとウェイトを移している。そのため、同社では、社員の各種技能資格習得を奨励することで社内への定着化を図っている。これにより、人手不足が顕著な北海道の地方都市において安定した雇用の確保がなされている。



いきいきと働く従業員の様子